



進取の気性



教育目標

自律

尊重

創造

第9号

令和5年11月27日発行

校長 堀越 勉

麹町中を整える（その④） 体験的学習の機会を確保

＜前提＞ **学習指導要領等に基づいて**麹町中学校の教育活動を整えています



校訓 進取の気性
激しい変化に柔軟に
対応し、新たなこと
に進んで挑戦してい
こうとする本校伝統
の精神

実体験に勝る学びは？

例えば、キャンプに行くとしします。日常の環境から離れ、自然の中で生活をするわけですから、予め様々な想定を参加者一人一人が行い（事前学習）、準備を進めます。現地では想定していた環境と若干異なるケースが多く、そこで創意工夫（現地学習）をしながら、自ら考え、よりベターな方法を創出していきます。その過程で達成感や協力の喜び、新たな発見などの実体験があり、この積み重ねが子どもたちを少しずつ成長させます。現地では、天候や温度、匂い、出会った人々との関わりなど、実際にその場に身を置いたものだけが味わうことのできるさまざまな環境があります。この実体験を、「キャンプの達人から話を聞く」という活動に置き換えることができるのでしょうか？「実体験に勝る学び無し」とは、正にこのことで、子どもたちにとって大切なのは、実体験から感じ取る空気感の中で、自分が主体的にどう考えて行動していくかということだと考えます。

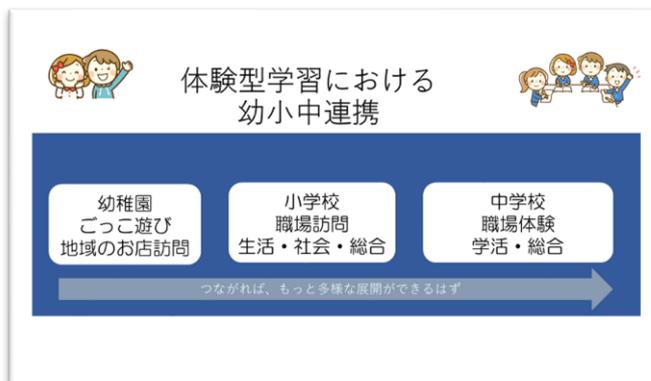
「麹中生は体験的学習が少ない？」問題を整える

2つの「無い」の行方

① 職場体験学習が無い

保育園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学へ一連の教育活動のつながりの中に、一人一人の子どもたちが自らのキャリア形成を適切に行っていくための「キャリア教育」が位置付けられています。この中の一つに「キャリア体験学習」があります。幼少期の「ごっこ遊び」から始まり、「職場訪問」「職場体験」「研究室訪問」「インターンシップ」へと、各発達段階に応じた適切なキャリア体験があり、全国の幼児、児童、生徒、学生がその貴重な機会を経験しながら、自らの将来像を夢に見て目標に向かって努力しています。

キャリアを体験する学習は、年齢とともに「集団から個別へ」と進化していきます。ちょうど中学校1年生では、集団的要素がまだ残った状態での職場訪問が行われます（本校のミライ探究フィールドワーク）。転換期を迎えるのは、中学2年生です。一人一人が志望する職業を目指し、「職場体験学習」を全国の学校で行っています。安全面を考慮し、二人以上のグループで職場に出かけますが、体験する中身はあくまでも「個人」の志望に合わせています。一人一人が、大人の社会の中に身を置いて、働くことの尊さを感じ、社会の仕組みを学び、社会を支えている大人の素晴らしさを身をもって実感します。この体験的な学習が、中学校3年生における進路選択に直接結びつきます。自己のキャリア達成のためには、どのような進路選択を行うべきか？子ども一人一人が主体的に考える力を身に付けていきます。全国の中学校の97.9%が実施しているこのキャリア



体験が本校には無いのが現状です。8社程度の有名企業のビジネスパーソンをお招きした講座と指導をもって、体験学習に替えています。コロナ禍の時期には他校でも見られた方法ですが、アフターコロナの今、子どもたちの成長を考えれば改善の必要があると思います。今後は、実体験の機会を創出していきます。

② 宿泊行事における体験が無い

本校の2年生の宿泊行事はスキルアップ宿泊を八ヶ岳高原で行っています。ねらいは「探究学習による問題解決能力の育成」であり、これは総合的な学習の時間の目的です。宿泊行事本来の目的は「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」です。現状では、3日間ホテルの会議室で、外に出ることもなく、テーマに基づくグループ協議が繰り返し行われます。これは、企業の新人研修等の方法と似ており、14歳の子どもたちにとっては大変ストレスの蓄積する状況です。（現在は、過度な生徒のストレスの状況に配慮し3日目に牧場での時間を設定しています。）わざわざ、八ヶ岳まで出かけて、自然や郷土文化、現地ならではのスポーツなど、東京では味わえない体験学習の教育財産を活用すること無く会議室で過ごすことは、一部の成果はあるものの、全員の生徒にとって適切な在り方かどうかを考える必要があります。今後は、子どもたちの思い出に残る宿泊行事を創出していきます。



卒業生など、社会で活躍する人材による講演会は同窓会等の協力を得て継承

麹町中学校の強みと言えば、OB・OGの皆さんが実社会のあらゆる場所で活躍していることです。その活躍は、日本だけに留まらず、全世界を舞台に最前線でトップランナーを務めています。これらの人材を学校にお招きして、直接対話しながら、子どもたちが自分自身のキャリアについて考えることはとても意義深いものです。こういった、本校の特長的な取り組みは、今後も同窓会等を通じて継承してつなげて参りたいと考えています。



同窓会のバッジ

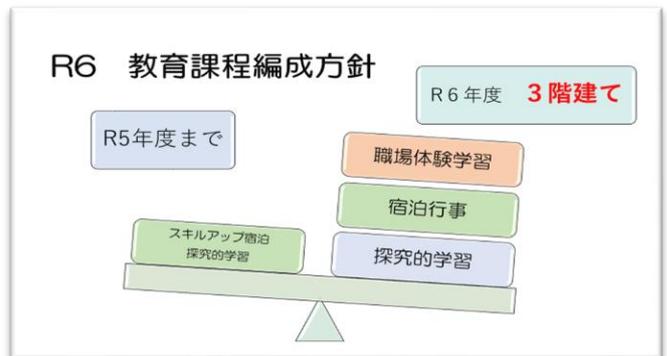
「職場を体験したかった」子どもたちが語る自分の未来との関係

現在、昼休みと放課後に3年生の面接練習を行っています。将来の夢を熱く語る姿が印象的です。その中で、職場体験について聞いています。塾や小学校時代の友人関係などで、他校の情報が入っていますので、子どもたちは明確に答えています。将来の目標が明確な生徒ほど、職場体験をしてみたかったと、言っています。残念がっている生徒には、高校では中学校の分まで学ぼうねと声をかけています。↓（例）

未来展望	子どもたちの声
公務員	実際に、役所や図書館などで働いてみたかった。大人の雰囲気を経験したかった。
医師	夢に向かうモチベーションやイメージを高めることができるのではないかと考えている。
医師	病院の一日の流れがどうなっているのか、多くの患者の管理や寄り添い方を体験したかった。
ファッション	実際に作ったり売ったりしてみたかった。マーケティングなど興味が深まったのではないかと。
看護師	病院内が無理でも、薬局とか医療に関する体験をできる場所に行ってみたかった。
カフェ経営	将来の目標は決まっているので、実際に接客業などを社会の中で体験してみたかった。

令和6年度は1階建てを→→3階建てに

先日の学校運営協議会において、令和6年度の教育課程編成方針について報告いたしました。本校の体験的な学習の不足への対策として、現在の1階建ての構造を改め、3階建て構造に進化させます。探究的学習と宿泊学習と職場体験学習はそれぞれ目的が異なりますので、目的に応じた教育活動を確保できるよう、子どもたちの心に残る教育課程を編成していく方針です。



気付き考え実行する 1年C組 毎日心がホッとするように

給食後の、牛乳パックやお箸の散乱は、誰もが気持ちの良いものではないものです。この環境を自分たちで改善しようと立ち上がったのが、有志の人たち。まるでアイロンをかけたように平面化され片付けられた牛乳パック、丁寧に揃えられたお箸。これらを有志の子どもたちが、毎日手作業で行っています。学級の問題を自分たちで考え解決するアクションが始まっています。

